

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

8/10

メディカル英語 No.6

医学英語のガイドライン・勧告文を読む —— should・may・mustの強度を読み分ける

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。医学英語のガイドライン文書で「should・may・must」の強度の違いを無視して読んだ答案と、推奨の強度を正確に読み分けた答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① ガイドライン・勧告文の英語読解

慶應義塾大学医学部・東京科学大学・順天堂大学医学部の英語では、医療ガイドラインの英文が題材として使われる。must（義務）・should（推奨）・may（許容）・should not（非推奨）という強度の違いを知る受験生は、勧告の意味を正確に把握できる。

② 推奨の根拠・エビデンスの強さを問う問題

「なぜこの治療法はmustではなくshouldなのか」という設問は、ガイドラインの構造を理解していなければ答えられない。エビデンスの強さとの関係を知る受験生は即座に対応できる。

③ 医学部推薦の事前課題・口頭試問

ガイドラインを事前課題として読む形式の推薦入試では、「この勧告の強度とその根拠」を面接で問われる。強度の違いを知る受験生は準備の質と面接対応力が他の受験生と明確に異なる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
慶應義塾大学 医学部	ガイドライン・勧告文の英語読解	推奨強度の読み分けが設問対応の速度と精度を高める
東京科学大学	医学英語の勧告文・内容説明問題	should・may・mustの強度理解が読解の質を高める
昭和大学・東邦大学 医学部	医学英語の読解・内容説明問題	推奨強度の読み分けで設問対応力が高まる
医学部推薦・総合型選抜（全般）	ガイドラインを前提とした口頭試問	推奨強度とエビデンスの関係を語れる受験生として際立つ

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

医学英語のガイドライン文書を「内容を大まかに読む」アプローチをとる受験生は、推奨の強度の違いを見落とす。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）must・should・mayの強度の違いを正確に読み分けられる、（2）エビデンスの強さと推奨強度の関係を理解できる、（3）医学部推薦の事前課題と面接対応力が高まる、という変化が起きる。

何十年も医学部の英語答案を採点してきた清光学院の講師陣は、ガイドライン読解で「強度の違いを無視した答案」と「推奨強度を正確に読み分けた答案」の評価の差を採点者として知っている。